

人生はやり直せる—。

Harvey Keitel
Johnathon Schaech
Bridget Fonda
finding
Graceland

グレイスランド

ハーヴェイ・カイトル ジョナサン・シャーチ ブリジット・フォンダ 監督:デヴィッド・ウィンクラー

LARGO ENTERTAINMENT Presents A CARY BROKAW/AVENUE PICTURES Production A DAVID WINKLER Film HARVEY KEITEL JOHNATHON SCHAECH BRIDGET FONDA
"FINDING GRACELAND" Casting By ANDREA STONE Music By STEPHEN ENDELMAN Costume Designer JULIE WEISS Production Designed By JEFFREY TOWNSEND
Director Of Photography ELLIOT DAVIS Editors ROBERT K. LAMBERT, A.C.E. LUIS COLINA Line Producer STUART BESSER Co-Producers ANDREA STONE FRANK K. ISAAC
Executive Producers PRISCILLA PRESLEY BARR POTTER Story By JASON HORWITZ and DAVID WINKLER Screenplay By JASON HORWITZ Produced By CARY BROKAW
Directed By DAVID WINKLER ©1998 LARGO ENTERTAINMENT, INC. ALL RIGHTS RESERVED 配給:株式会社東北新社 <http://www.tfc.co.jp/~hiroba> LARGO AVENUE 

“グレイスランド”そこは、ホワイトハウスに次ぎ、アメリカで2番目に多くの人々が訪れる…。

エルヴィスは生きていた!?

生きる希望を失った青年の前に現れた謎の男は自らを“エルヴィス”だと名乗った。



‘59年型コンバーチブル・キャデラックが夜風を切って滑るように走る。結婚式を終えたばかりのパイロンとベアトリス。だが、幸せ絶頂の二人を襲った突然の列車との衝突事故。一瞬にして愛しい妻は殞らぬ人となり、幸せの未来も粉々に打ち砕かれてしまった。

事故から一年後、生きる目的も勇気も失い、漠然と車を走らせていたパイロンはある日、自らをエルヴィス・プレスリーだと名乗るヒッチハイカーに出会う。車に乗せてくれと頼むその男は、エルヴィスが眠る“グレイスランド”に向かいたいと言う。

そして彼が助手席に乗り込んだその時から、2人の周辺で信じられない出来事が起こり始める…



“大切なのは悲しみを受け止める勇気をもつこと”
爽やかな感動を演出する実力派キャスト

“エルヴィス・プレスリーは生きていた”というユニークな題材をモチーフにしながら、現実を受け止める勇気の大切さと、生きることの素晴らしさを教えてくれる本作「グレイスランド」には、ハリウッドの実力派のキャストが名を連ねている。

主演の“エルヴィス”を名乗る謎のヒッチハイカーに「バルブ・フィクション」「ピアノ・レッスン」など今や演じられない役はないと言われるほどの演技派ハーヴェイ・カイトル。妻を亡くし、失意の日々を送るパイロンに「キルトに纏る愛」「すべてをあなたに」の若手注目株ジョナサン・シャーチ。マリリン・モンローのそっくりさんとして素晴らしい歌声を披露するアシュレイには「ジャッキー・ブラウン」「シンプルプラン」などハリウッドのトップ女優に成長したブリジット・フォンダ。

とりわけハリウッド・カジノでの“エルヴィス”（ハーヴェイ・カイトル）と“マリリン”（ブリジット・フォンダ）の見事なパフォーマンスは必見である。監督は本作が長編デビューとは思えない程見事な手腕を発揮しているデヴィッド・ウィンクラー。また、本作品の製作総指揮はエルヴィスの元妻であるプリシラ・プレスリーが務めており、彼女の協力の下、初めてグレイスランド内での撮影が行われたことも話題の一つとなっている。



年間75万人以上の人々が訪れる“グレイスランド”。人々はそこに何を求めるのか？

“グレイスランド”とは1957年にエルヴィスが10万ドルで購入した邸宅のことを言う。購入時エルヴィスは22歳であったが、既に数え切れないほどの賞やゴールド・レコードを手に入れている。その後エルヴィスが亡くなるまでの20年間彼はそこに住んでいた。エルヴィスの死後、1982年に一般公開されるのだが、年間75万人以上の人々がそこを訪れ、その数は年々膨れ上がっていると言われている。歴史的建造物ではホワイトハウスについて全米第2位、個人の邸宅としてはNO.1である。何故、そこまで人々を引きつけるのか？
勿論キング・オブ・ロックン・ロールの住居であり彼が眠る地であるのは間違いないがそれだけではない何かを求めて人々はそこを訪れる。

そこにあるものは映画の中にも描かれているような“心の癒し”なのかもしれない。実際、この映画の撮影が行われた時にも「敷地内に足を踏み入れた時、他の場所にはない何か神聖なものを感じた。」と撮影クルーは語っている。

今なお絶えないエルヴィス生存説

エルヴィスの死後、何度となくエルヴィス生存説がマスコミを賑わしている。例えば、エルヴィスが亡くなった77年8月16日メンフィス国際空港からブエノスアイレスに向けて飛び立ったエルヴィスを目撃したとかキッチンの窓からエルヴィスの顔が覗き込むのを見た後、窓ガラスにエルヴィスの影がくっきり残っていたなど現在に至っても目撃例は後を絶たない。

それは、エルヴィスがビートルズやマリリン・モンローと同じように世代を超えいかに人々の心に今も生き続けているかを証明しているとも言えよう。



キャスト
ハーヴェイ・カイトル
「バルブ・フィクション」
ジョナサン・シャーチ
「キルトに纏る愛」
ブリジット・フォンダ
「シンプルプラン」
ジャッキー・ブラウン
クレチエン・モル
ジョン・エルワード
スーザン・トレイラー
ペギー・コーメリー

スタッフ
監督：デヴィッド・ウィンクラー
脚本：ジェイソン・ホーウィッチ デヴィッド・ウィンクラー
製作総指揮：プリシラ・プレスリー
撮影：エリオット・デヴィス
「デンバーに死す時」
「グッド・オン・ザ・パース」
美術：ジェフリー・タウンゼント「めぐり逢えたら」
衣装：ジュリー・ワイス
「マイルーム」
「ラスベガスをやっつける」
編集：ルイス・コリナ

1998年/アメリカ映画/カラー/
スコープサイズ/ドルビーSR
配給：株式会社東北新社 日本語字幕：松浦美奈
<http://www.tfc.co.jp/hiroba>
©1998 LARGO ENTERTAINMENT, INC. ALL RIGHTS RESERVED

“人生はやり直しがきく。希望を持って生きる”▷明日への願い▷より

全編に流れるエルヴィスのナンバー

- ♪ 陽気に行こうぜ (Rip It Up)
- ♪ ワン・ナイト (One Night)
- ♪ サスピシャス・マインド (Suspicious Mind)
- ♪ ロング・ブラック・リムジン (Long Black Limousine)
- ♪ 明日への願い (If I Can Dream)

G r a c e l a n d

＜上映終了日は劇場までお問い合わせ下さい＞

①12:00 ②2:10 ③4:20 ④6:30

前売鑑賞券¥1500好評発売中!! (当日一般 ¥1800の処)
★劇場窓口、市内プレイガイドやチケットぴあ、ローソンなどでお求め下さい。
★劇場窓口でお求めの方に先着でポストカードをプレゼント! シブシブ〜!!

心斎橋アメリカ村BIG STEP 4F
パラダイスシネマ
06(6282)1460

Living with HIV/AIDS
パラダイスシネマはエイズ基金を支援します

99年11月20日(土)よりロードショー

グレイスランド、そこは癒しと再生の地